

ベストクラス選定理由書

作成者：神田真実、摺石敏之、谷山安彦、小川聖雄、伊藤博之、中野友子

科目名称 学級における人間関係の心理学（昼間クラス）		（担当教員名： 秋光恵子）
課 程 ： 大学院（修士）	開講時期 ： 後期	
授業形態 ： 講義	授業規模 ： 31人以上	
インタビュー対象教員名 秋光恵子 （実施日時：7月11日 17:15～18:30； 実施場所：総合研究棟小会議室）		
インタビュー対象受講者名 中村恵子、岩淵さくら、古橋祐一 （実施日時：7月11日 16:30～17:15； 実施場所：総合研究棟小会議室）		
選定理由 授業担当教員と受講生へのインタビューから、それぞれ次のことが明らかになった。		
1 特徴：「教えて考えさせる」講義型授業の一典型		
(1) 明示的な Active Learning ではないものの、 Deep Learning を実現している。		
① 授業内で受講生間の活動は意図的には組み込まれていない。		
② 受講生は教員による説明の最中、さらには感想文の執筆において、資料・データとの対話、自分自身との対話、他者（の経験）との対話を図らずも熱心に行うことになっている。		
③ 15回の授業の構成も、自分を知る→他者を知る→他者とかがかわると②をトレースする形で構想されている。		
④ 古典的（基礎的）な理論と最新の理論の両者をバランス良く組み込んでいる。「あるある現象」の適切な選択を行っている。絶えざる scrap & build 。		
(2) 講義【70分】《あるある感の高いテーマ提出→アカデミックな分析による解決方策の提示》→ミニ・レポート（自分の経験への学んだ事柄の適用）の執筆【講義後数分】→教員による熟読／選定→次回授業冒頭での全受講生への口頭での紹介（3名分程度）：良質なミニ・レポートによる経験の効率的交流【15-20分】		
(3) 教員の説明によって惹起される reflection と並んで、ミニ・レポートの紹介によって惹起される受講者の再 reflection が授業の大きな柱となっており、その意味で受講生の存在（ある意味での「 <u>高い参画</u> 」）が授業成立の要の1つとなっている。		
2 何故受講生の満足度が高いか？		
(1) 教師の明確な信念の存在／明示とそれを裏打ちする教師の熱意。		
① 社会心理学はこんなに役に立つ学問だ!!		
② 社会心理学の理論（+データ）の裏付けにより、受講生たちが経験則でやっていたことに対する、支えもしくはオールタナティブを与える!!		
③ 周到的な準備と気配り、教師自身が楽しんで授業をしている感		
(2) 各人が必ず幾らかは持っている現場（教師、児童生徒、保護者）での <u>身近な経験</u> について、その reflection を仕掛けている。：「現場のあるある話」「立場による違いの存在」		
(3) その際に、単なる経験の交流にとどまらず、アカデミックな「飛躍」（データや理論による裏付けのある）が意図されている。：「そんな見方、考え方ができるのか！」		
(4) 上記2つにより、「役に立つ学問（科学）」として社会心理学を認知してもらえている。：「学び甲斐」		
(5) ユーモア+関西風しゃべくり技法		
以上により、本科目をベストクラスに選定する。		